3 園評価書（指標）

令和6年度 園評価書

園番号 5

園名 井川こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
心豊かにたくましく伸びるいかわっこ	“やってみたい”が広がり”おもしろい”で繋がっていく	やってみたいという好奇心をもってすぐに試そうとしている	子どもが生活の中で、たくさんの「やってみたい」という思いを持っていた。その好奇心が継続するように、保育教諭が関わったり、環境構成を繰り返したりすることで意欲的な姿があった。	A	A	・子どもの姿を見ていると、やりたいことがどんどん見つかり、楽しみながら遊びが広がっている。 ・子どもの思考は単発であり、それに連続性を持たせるのが担任の役目だとすれば、子どもの遊びをうまく支援している担任の水面下での役割が十分に機能していると感じる。 ・「やりたい」が「やってみて、おもしろい」となり、「またやってみよう」と変容していくように思う。その過程がとても重要であると思う。井川ではそれができているからこそ、子どもの個性や良さが十分に発揮されているのではないかと思う。 ・個性が活かされた指導がなされている	・来年度は休園となる予定であるが、満3歳児の入園が見込まれる。保育計画を作成する上で、在園児1名であった今年度と来年度の1名では、保育の見通しや発達の姿が予想できないため、その子に合った保育計画を作りあげていく必要がある。 ・今年度は子ども一人という環境の中で、子ども同士の学びが少なかった。その代わりに小学生との交流を多く持つことで、遊びを広げたり深めたりすることができた。しかし、来年度は小学生との年齢が離れていることもあり、交流の機会が少なくなってしまうことが予想される。定期的な交流を図ることで、子ども同士の学びができるよう目指して行きたい。
		友だちや保育教諭と一緒に遊ぶ中で思いついたことや気づいたことを自分なりの言葉や行動で表現できている	主体的に遊ぶことで、たくさんの気づきや思いを持ち、保育教諭と共有して遊びを進めてきた。また、小中学校との交流を多く持つことで、友達とのやり取りを多く持つことができた。	A	A		
		井川の自然を知り探索する中で、四季に応じた遊びを行い、いろいろな体験ができる	散歩に出かけることで、井川の自然に多く触れてきた。虫や爬虫類などを飼育して行く中で、どこに何がいたのか。どんな虫などがいるのかを考える姿があった。日々の遊びの中にも自然に触れる機会を多く取り入れ、戸外に出かけたが、例年よりも回数は少なかった。	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	各年齢の発達や就学までに育てほしい姿を理解し、子どもの発達にあった経験ができるように適切な援助を行っている	子どもの発達や特性を理解し職員や保護者、専門機関、小中学校と共有してき。幼児期までに育てほしい10の姿と園児の発達段階を踏まえ援助を行い、意欲的に活動できるように保育を進めてきた。	A	A	・こども園において、子どもが主人公であり、子どもの良さをどう伸ばして行くか、その手立てや支援の方向性が、職員に浸透しているように思う。 ・子どもの思いによって、落ち着いた環境やダイナミックな環境など、場を変えながら遊びが思い切りできるように工夫されている。 ・小学校での生活を見据え、生活リズムを身につけられたのは良かった。 ・園職員だけでなく、交番員や地域の人材を活用しながら、子どもへの指導を行っている。毎年やることの意義を感じる。	1 こども園における教育及び保育 ・来年度は子どもに取って初めての園生活となるが、友だち同士の関わる場面を作ることには難しい。そのため保育者との関係を深め、その子の発達に合わせた援助の方向性を見つけていく。 ・井川こども園での保育の柱となるのは、“地域資源”の活用である。年齢や個にあった地域コミュニティとの関わり方が重要なため、子どもの姿をもとに探っていく必要がある。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児が安心して過ごせるように園生活の流れを作っている	生活の流れを一定にすることや、朝の時間に1日の予定を伝えることで（ボードに記入）見通しを持ち、安心して過ごせるようにしていた。	A	A	・安全管理・指導 ・初めての園生活の中で、避難訓練などを実施し安全に過ごせる環境づくりを行っている。訓練後には職員全員で振り返りを行い、反省点やヒヤリハットを共有することで、安全対策を見直し、事故防止に繋げていく。 3 健康管理・指導 ・健康 教育の充実に向けて、保育者と1対1の関係を大切にしながら、基本的な生活習慣が身につくよう共に実践し支えていく。また、園と家庭が協力し合い、園児が自然と生活習慣を身につけられるようしていく。	
	(3)環境を通して行う教育及び保育	子どもの思いを大切にしながら、十分に遊び、繰り返し楽しめる時間と場所を確保している	子どもが興味関心のある遊び（遊びのテーマ：転がす・流れる）を繰り返し行い、発展できる環境と時間を確保することで、室内外で年間を通して楽しむことができた。	A	A	・あらゆる場面で関係する人々との意思疎通を図り、こども園に関わる人を増やすことができたと思う。 ・子どもへの支援の方向性が保護者に伝わり、両者が共通理解しながら見守る姿勢ができている。 ・就学前の子どもはまだまだ発達途上であり、いろいろな面で支援が必要だろう。そのために、子どもの特性や個性を理解し、困難な部分を改善するための方策を練りながら進めていく必要がある。保護者とも定期的な話ができていたと聞き、良い取組であると思う。 ・少人数で多くの分掌を担当しなければならぬ状況は、大変であったと思う。すべてを完璧にこなすことは考えず、軽重を付けながら取り組んで言ったらよいかなと思う。	
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	避難訓練、不審者侵入訓練、交通安全指導を年間計画に沿って実施し、訓練の反省やヒヤリハットを通して事故防止につなげていく	避難訓練を定期的に行い、反省や改善点を後日確認し、保護者に伝えたり、視覚的支援を使って子どもに分かりやすい援助を行った。子どもだけでなく、保育者自身が子どもの姿、その時々々の災害の様子を把握しながら、避難の方法を考え職員間で共有できるようにしていく。	B	A	・今後の「園」の方針である地域の中でこども園が必要とされる存在であることを証明できた1年であったと思う。 ・子ども（在園児）の笑顔をれば、こども園での生活が良い時間を過ごしていることがよくわかります。 ・小中学校職員も公開保育の研究協議に参加させていたのだが、日常的に奥の深い研修が行われていることがわかった。そうした真摯な取組みが、子どもへも良い影響を与えていると思う。 ・解放感があり、いるだけで清々しい気分になれる。備品などの環境も十分に揃えられていると思う。こうした環境の中だからこそ、伸びやかに子どもは活動できているのではないかと。	
3 健康管理・指導	(1)健康教育の充実	個人差は見られるが基本的な生活習慣が身につくよう、家庭と連携を取りながら、個にあった援助をする	食事面や生活習慣について気づいた点の要点を絞り、保護者に伝えたり、子どもへ視覚的支援を使ったりして援助を行ってきた。	A	A	・日頃から、保護者との連携がとれていると感じる。そうしたことにより、両者の信頼関係があればこそ、安定した保育ができると思う。 ・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	子どもの発達にあった指導計画を作成し、園全体で共有していく	子どもの発達段階や特性、興味関心に沿って個別の週案、月案、サポートプランを作成し、月の反省や月案検討の時間を持ち、職員間で共有した。また、サポートプラン作成後、保護者とも面談を行い、園での保育計画を知らせ家庭と共有した。	A	A	・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌担当者が中心となり、企画、提案、作業分担が行われ、見通しを持ち早めに準備が進められている	園だけでなく、小中学校との合同での活動が多かった。見通しをもって話し合いを重ねてきたが、期限が迫ってしまうことが多くあった。	B	A	・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
6 研 修	(1)研修体制の充実	教育目標や重点目標に向けて、具体的な手立てを共通理解し、保育実践と研修を重ねている	月に1度の園内研修や月2回の職員会議の中で、子どもの姿を共有し手立てや援助を検討を行ってきた。その中で出た意見や実践を精査し、保育実践へと繋がってきた。	A	A	・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもが自ら選択し、じっくりと遊べる環境作りをしている	子ども同士の刺激がないため、他の遊び、玩具を提供しても長続きせず遊びが固定化していた。小中学校との交流で、遊びと一緒にやる時間を意識的に作ってもよかった。	B	A	・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者と保育内容や子どもの育ちを共有できるよう、お便りやドキュメンテーションを使って発信し、子どもの育ちを伝え、子育てを支えている	1日のボード作成を毎日行い、12月からはIT化によりコドモンから配信となり、写真もたくさん見てもらっている。ただ、行事や季節ごとのドキュメンテーションの提示回数が少なくなりました。	B	A	・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	井川小中学校や近隣園と年間を通しての交流を持ち、こども園、小中学校、互いの指導方法を知る中で、ともに研修が行える機会を設けている	井川小中学校との連携を強化し、日々の交流や行事など密に関わることができた。互いの授業参観、保育参加、公開保育などを行うことで、どんな授業・保育を行っているかが分かることで、職員だけでなく、子供の成長にとってプラスとなった。	A	A	・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	豊かな体験が得られるように、地域の様々な人との関わりの機会を大切にしている	地域の人が園に来て交流したり、遊びを一緒に楽しむことができた。また、園外活動を行う中で、地域の人と交流することで子どもの姿や遊びを知ってもらい、こども園の活動を理解してもらえる機会が持てた。（散歩・散策・地域探検・学習発表会など）	A	A	・市内で1番、学校との関わりを持った連携教育ができていると思う。それぞれの園と学校がその枠組みを超えた形で交流できているからこそ、その真ん中にいる子どもたちも安定していると信じている。園の先生方のご協力に感謝しています。 ・地域に働きかけ、地域もまた喜んで力を貸してくれる関係ができていると思う。園や子ども、保護者を支える地域があるからこそ、他園ではできない思い切ったことも実現できたと思う。	